

議長（山本 陽一郎君） 日程第1、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

5番、中村充男君。

5番（中村 充男君） おはようございます。

中村充男でございます。

今年はことのほか暑い夏でございまして、そんな中で一昨日、防災訓練が稲部小学校の校庭で行われました。役場の職員をはじめ関係各位の方々におかれましては、早朝よりご準備をいただき、また前日より諸準備をいただいたことに関しまして、大変ご苦労さまでございました。心より労をねぎらい、敬意を表する次第でございます。

しかしながら、この訓練の始まった時にお一人、お二人と倒れる方をお見受けをいたしまして、防災訓練そのものが災害のような気もいたしました。本当に暑い日でございました。臨時の駐車場に車を止めまして会場に歩いていく途中で、道路にとんぼがチラホラ落ちておりました。9月の声を聞いてあわてて飛び出してまいりましたとんぼが、この暑さで熱中症にかかったようでございまして、道に倒れておりました。

暑い夏は今年で終わりかと思うと、地球温暖化のせいか、来年も再来年も年々再々暑くなってくるとお伺いしております。そうすると、防災訓練の時期ややり方を少し考える必要があるのではないかな、このようにも思わせていただいた次第でございます。

我が日本にもいよいよ亜熱帯地方の生活の様式を研究して、この暑さに耐え得る夏を過ごす方法をみんな考えていく必要があるのではないかな、このように思わせていただきました。

そこで町長に一つご提案を申し上げるわけでございますが、提案の前に、まず通告どおり1番目に、町と補助団体の関係について、お伺いをいたしたいと思っております。

各種補助団体への補助金額、この団体には幾ら、その団体には幾らという金額を決定されるときはの根拠、それをお示しいただきたい。そしてその団体への補助金を出してしまえば、1年間終わって、その報告を受けて何ら問題はないですという判断をする前に、2カ月、3カ月に1回ずつ、町当局とその団体がいろいろ会合をもって、修正すべきは修正し、要望があれば要望を出す。また、その団体に事業をお願いする。その際には町としての要望ももちろんではございますけれども、指導をしているかどうかということをお伺いしたいと思っております。

と申しますのは、まず1点、シルバー人材センターに1,091万円の補助金を出されております。同金額が三重県からも来ております。そしてまた、プラス500万円というのも補助されまして、またそのシルバー団体におきましては、会員登録

録され、入会された方々の年会費、そして事業を請け負った請負金額、その合計の金額で事業を展開されております。

高校、大学を出て就職する際には、自分に合ったのはどういう職業か、こういうことをやりたい、ああいうことをやりたい、よく似た企業があれば初任給はどっちが高い、交通費は出るのかどうか、そういう条件をもって企業を選択いたしますが、シルバー人材センターはそういう仕事を一たん終えて、自分の余暇の善用をしよう、少しでもボランティアの精神で何かの役に立てたらなということで、シルバーに登録をされている方がほとんどだと思います。

ところが、そのシルバーに入って充てがいぶちの仕事、自分の希望ではない仕事をするにもかかわらず、ある方は時間給700円、ある方は900円、この200円の差がある。一生懸命暑いさなか頑張っておっても、1時間200円の差がある。700円の方に至っては、たしか三重県の最低賃金は728円と聞いております。その最低賃金も下回って700円。そしてその事業では幾らか黒字が出ていると、こういう報告でございます。その事業に黒字を出す必要があるのかどうか。一生懸命働いておられるシルバーの方に少しでもお金をあげる、それか請け負った仕事を安くする、そしてとんとんで事業ができればいいじゃないか、こう思わせていただくわけでございますが、そうした指導を町当局はなさっておられるかどうか。

1時間200円違いますと、1日5時間働く方で1,000円違ってくる。1万円で1,000円違うならいいのですが、3,000円、5,000円で1,000円違ってきます。20日間働くと2万円違ってくる。新聞の広告によりますと、二泊三日の中国旅行が1万9,800円というような広告も見ます。1カ月の給料の差額で中国へ行けるか行けないか、こんなことでございます。

また、あちこち清掃していただいている方々は、ほうきやかまは自分持ちだと。道具は自分持ちで安い値段で暑いところで働いておる。冒頭に言いました、これから夏どんどん暑くなってくる。この暑さではもう行きたくないなど。行きたいんだけども行きたくない。体の心配をして、そう思われる方も出てくる。そして条件に対して事務局にちょっと文句を言うと、人が多いのか事業が少ないのか、もうやめていってもらってもいいよと、こういうことを言われる。これでいいんだろうかなと思わせていただくわけでございます。

暑い夏がこれから続くとなれば、中国では35以上の猛暑日には猛暑手当というのを付けて、労働の奮起をしておる。ですから特別予算を組むなり、予備費から捻出して暑い日に働いていただいた方には、それなりの手当をプラスアルファつけさせていただくのが、頑張れる力になるんじゃないかなと、このように思わせていただくわけでございます。

35 を超えると100円増し、38 を超えた場合には200円増しと、こういうようなことになると暑い日でも頑張れる、こんなような気がしてならんわけでございます。

そしてもう一つ、シルバーに委託しております仕事でございますが、担当課長とは、この間ちらっと話をさせていただきましたが、先般、福井県から観光バスに乗りまして、隣のいなべ市でパークゴルフの親善大会があった。その後、大会が終わったら湯の山温泉で泊まるというコースでございましたけれども、東員町を非常に思っていたいている方、藤原の方でございますが、東員町にはパークゴルフ場のいいところがあるので、あそこで一回やらせてもらったらどうやと、こういう提案で、それを下見に見えたわけです。北勢から湯の山温泉に直通で帰ればすぐにお風呂に入れるものを、わざわざ東員町のパークゴルフ場を下見に回られた。

そして藤原のほうからは、今こういう方々が行かれたので、ひとつご案内をいただきたい、できればお出迎えをいただきたいという連絡があったわけでございますが、その管理していただいていた方がシルバーの方だと聞いておりますが、お出迎えどころか、もう時間やであかん、こういうことで一蹴されてしまった。たしか北勢のパークゴルフ場は無料でございますが、東員町は1人500円いただいている。いいところやということで紹介いただいたのに、そのようになってしまったということは非常に残念だ。案内された方が張り合いをなくしてみえる。

以前、大学の試合で東員町に来る人が、お昼の弁当を買うところがあるかという連絡に、役場の職員の対応で、買うところがありませんので途中のコンビニで弁当を買ってきてくださいと、こういうふうに言ったことを、私はちょっとご意見申し上げたと思うんです。暇で困っている店がたくさんあるのに、途中のコンビニで弁当を買ってこい、そんな指導はないやろう。せっかく500円いただけるパークゴルフ場を使おうと思っているのに、時間がないからもうだめだ、下見に来た人を断ってしまう。一体どんな教育をしているかということをお知らせしていただくわけでございます。ですから、そうした補助団体に対する教育と金額の根拠を町長にお伺いしたいと思っております。よろしくどうぞお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 改めましておはようございます。

今日は一般質問ということで、シニアカレッジの皆さんがご参加をいただいております。傍聴に来ていただいております。どうぞ今日と明日、一般質問でございますけど、将来の東員町のまちづくりのために、前向きに真剣にご議論をいただきますように、よろしくお願いを申し上げます。

まず、中村議員の町と補助団体の関係についてのご質問にお答えをいたします。

各種団体への補助金につきましては、団体が行う特定の事業を育成、助長するために、公益上必要があると認めた場合に限り交付するものでありまして、地方自治

法第232条の2において、「普通地方公共団体は、その公益上必要がある場合においては、寄附または補助をすることができる」と規定されております。

また、公益上の必要性とは、広く社会公共一般の利益を図る必要のあることを言うものでありまして、公益上必要であるか否かは、「客観的なものでなければならない」とされております。

補助金額決定の根拠につきましては、交付の目的及び対象事業、財政状況等を考慮して、予算の範囲内において、それぞれの各補助金の交付要綱の中で補助率及び限度額等を定めております。

また、各団体への補助に対する要望、指導等はどうなっているか、とのご質問ですが、補助金の財源は、町民の皆様が納めていただいた税金でございますので、補助金の有効利用とともに、透明性が重要であることにかんがみ、それぞれの団体の事業活動がその目的に合致しているのか、また、補助金の会計処理等が適切に処理されているのか等を、所管する担当部署が決算書等において確認を行っておりますので、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

先ほどシルバー人材センターのご質問がございました。私が知る限りは、シルバー人材センターは本人が職種は希望される、どういう仕事をしたいという希望を出されて、その仕事が出てきた場合に、希望された方に仕事をしてもらうということでございます。そして金額等につきましては、シルバー人材センターが決定をされております。草取りをした場合は幾らとか、庭木の剪定をされた場合は幾らとかということは、シルバー人材センターで決定をされております。そういうことでございますので、ご理解をいただきたく思います。

パークゴルフ場の件もご質問をいただきました。東員町のパークゴルフ場、非常によい施設ということで人気がございます。年々利用していただく入場者数はふえてきております。伸びてきております。これもシルバー人材センターにお願いしまして、管理等はしていただいておりますけど、いろいろなご批判をいただきました。そのようなことのないように、きちっと指導をさせていただきますので、どうぞよろしくをお願い申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。

私は報告を受けて、適切にこの金額が使われているとか、それはもう前回の門脇先輩議員の質問にも答えられておりますので、よく承知しておりますが、それでいいのかどうかということをご質問をさせていただいたわけでございます。

と言いますのは、たしか私が以前、東員町の観光って何やということを知りました。光っておるものを見に来る、東員町のパークゴルフ場が光っているから、そこを視察に来た。光っているものを見に来ていただいて、それが観光だということを知りました。

思うわけですが、この答えに前、質問させていただいた時に、町長はまず観光の目玉に大社祭りを挙げられました。この大社祭りでございますが、お祭りの流鏝馬保存会が上げ馬をやっていただくわけですが、これが超目玉でございます。祭りの目玉でございます。その流鏝馬保存会、私が初めて町会議員に当選させていただいた33歳の時、補助金額は30万円でございます。今年も30万円。30年間ずっと変わっていない。年々、ジュース1本買うにも80円から100円、110円、130円、150円と上がってきておるこの世の中で、流鏝馬保存会には30年間全然金が上がっていない。一回それをやっておけばいいかな、こういうことかどうかわかりませんが。

そして逃げ口上に、これは神社の行事だから出せない、こういうことを言われる。先般、六把野の石取祭の太鼓が調子が悪いので太鼓の張りかえをしたいので補助金が欲しいと申請しましたら、神さんのことやから出せないと言いながら、ふれあいフェスティバルに石取を引っ張ってこい、この時の修理費は出すと。そうすると、あの石取は神社の境内に格納庫があって、そこに保存はしておりますけれども、その太鼓は8月24日になると、子ども会が地蔵盆で使う。そして私、落語の会をやっておりますが、落語の始まる時、終わる時に太鼓を叩く。この情景を見せる。そして遠い昔には二見浦の天の岩戸でございますけれども、神様が隠れた時に、神様が出てくるように表で太鼓の鐘をどんどん叩いて、天照大神が、そっと何事が起きたか出てきたと、こういうような神話もございます。

日本の祭りに神、仏、先祖がないものはない。都合のいいときには神社のことやでだめやと。町の何かのときには補助を出す。同じ太鼓の張りかえでもそういうことを言われております。この上げ馬神事は大社祭りであるけれども、上げ馬神事、石取り神事、神事ということをつけるからだめなのかどうかわかりませんが、例えば私、穴太も山田も鳥取も石取りをひいておりますが、石取りに先祖の方々の御霊がお乗りになって、自分の部落は今どうなっているか、ああ立派になってきた、こんなところにアパートが建ってきた、学校もかわって立派になったというところを見ていただくために、その石取りに乗っていただく先祖の祭りでございまして、何も神様の祭りではないと私は思っております。

ですからこうしたものを伝統文化としてとらえるか、神様の神事としてとらえるか、とらえるところの心にあって、何も伝統を引き継いでいく、子や孫たちの代に、いい伝統文化を引き継いでいくという視点から立ったら、もっともっと町が手を差し延べる。そして東員町の観光の目玉は大社祭りだと筆頭に挙げられた以上は、これをもっともっと伝統を継承し、盛り上げていくのが町行政の手腕ではないか、このように思うわけですが。

何かと言うと、いろんな振興宗教といいますか、団体が、あれは神様のことやからいかんと。そうするとくじらをとるのもあかんと言って、シーシェパードという

ところが、その船に激突してくる、劇薬をまく。くじらのために人の命が失われていいのかどうか。どうも心の世界が崩壊をしておる。ここ一番の伝統を守るということに関して、町長は大社祭り自体に補助金が出せないということであれば、観光協会、そして流鏝馬保存会、いろんな形で出そうと思えば出せるわけでございます、出せる方法を考えていただきたい。

3つ目の私の質問でも、財政状況のことで質問しますので、そのときには出せると思うんですが、町長、来年の春で任期が終わるわけでございますが、大社祭りやそういうことの伝統に対して、ずっと30年間40万円、倍の80万円でも足りない。80万円オンしてもいいというぐらいの、もっともってこれを生きたものにしていくために、ここでご返事をいただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

余りこのことに関して、ここで議論は私は差し控えたいと思います。先ほど神事、それから文化、いろいろな方、いろいろな方面でご指摘をいただきました。基本的に神社・仏閣等に対して、行事等も含みますが、町費を出すということは、憲法に触れる恐れがございます。そういうことで非常に不安な部分もございます。だから大社祭り、六把野の獅子舞について、出した経緯は私もある程度承知をしております。わざわざ保存会というものを立ち上げて、その保存会にお金を支援させていただいている、その経緯は中村議員も十分承知だと思えます。だからこの場でも出していいのだとか、余り議論は私は深めない方がいいと思います。

今年に入りまして、大社祭りの流鏝馬保存会のほうから要望書もいただきました。十分、私どもとしては検討を重ねさせていただいて、町税を使わせていただくというのは、何であれば使ってもいいということを一生涯懸命研究をさせていただきまして、将来の方向に向かっていきたいと思えます。

40万円から確かに上がっておりません。その時には多分ものすごく議論されたと思えます。当時の行政、それから町会議員も含めて議論されたと思えますので、コミュニティということであれば、私は出していいと思えます。そういうことで、どうぞひとつご理解をいただきたく思えます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） 今まで2年半、議員に復活させていただきまして、町長がそれを慎重審議、じっと考える方やと、こう思っておったのですが、ところがこの夏、いなべ総合学園が甲子園に出ていきました。そのお祝金といいますが、200万円、議会の議決をせず、専決処分でお祝いを出された。これは悪いともいいいとも、私言えません。私は員弁高校出身ではございませんので、何とも思わないわけでございますが、町長も副町長も員弁高校出身やで、これはもう何とかせない

かんと思われたのに間違いない。私の高等学校は、あにはからんや明徳のほうでございまして、員弁高校とは違うわけございまして、そっちのほうに目がいておるわけでございますが。

補助金というか、お祝金を即決で専決処分で200万円、予備費から出されたとお伺いをいたしました。これは私、員弁高校出身ではないから言うわけではないんですが、それが妥当であったかどうかということですね。いなべ市によりますと、400万円お祝いを持っていった。5町あって、1町、東員町だけが合併しない、その東員町が200万円、あと4町がいなべ市をつくって、それからいくと、いなべ市は800万円出さないとかかんやないかと。

選手を見てみると、東員中学校から1人選手が入っておる。いなべ市からは、各町から3～4人出ておりました。桑名市は多度の補欠の子を含めて3人、いろいろ市町を調べて、あとは四日市、大池中学校とか津市のほうからも来ておられた。この選手の数からいっても、町の数からいっても、200万円というのはえらい大盤振る舞いではないか。それか、これが妥当であれば、よそが少ない。桑名市に至っては3万円出したというのです。

教育長、昨日、電話で話をしましたが、「東員町さん、えらいもんやな、200万円やら300万円って聞いたけど、えらい大盤振る舞いやな」と、こういうことを言われた。教育長に桑名市はなんで3万円かと聞いたら、「3人選手が出ているので、1人1万円として出させてもらいました」と、こういうことございまして。

これ今年1回限り。大社祭りは土日と2日間やって40万円。1回限りの甲子園に行くのに200万円。これいいのかな。そして聞き及びますと、尾崎監督という、今の野球部の監督は素晴らしい監督でございまして、来年も再来年も、ひょっとしたら甲子園へ行くかもしれない。まして春と夏、両方出ていくかもわからない。そうすると200万円ずつ、どんどん出すことになるようなことを、どうして近隣の市町と相談するとか、いろんなことをされなかったか。

こんなときには即、即断される町長という認識が私、今まで甘かったのですが、こういうことはパッと決められるのに、大社祭りのお金やら、シルバーの少しのお金をあげることを十分に検討すると、検討しているうちに寝てしまいますよ。これは町長、決断できる人ということ、私はいなべ総合学園の甲子園出場で認識をいたしましたので、即決できる町長として、もう一度ご返事をいただきたい。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。先ほどご答弁させていただきましたように、憲法に触れない範囲で出せるように頑張らせていただきます。以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番(中村 充男君)　　そして以前、私はオレンジバスは廃止してデマンドバス、タクシー、電話をかけたらスッと迎えに来てくれる、軽四でいいのです。そしてドアツードアで玄関に迎えにいったら、医者でも駅でも送らせていただくと、こういうことを言ったときは、「そんなこと、できますかね」というお返事でした。

ここに勝手に東員民報という共産党の新聞で、ここにおられる上原君代さんが、オレンジバス東西線廃止後の交通弱者の足を守れということで、何かバスが廃止になって医者へ行くのも不便になった、本当にバスを利用できなくて困っておられる人の介護タクシーとか、そういうものをやろうと思うと介護の認定が要る。その要介護まで至らん人のための足はないのかということで質問された時には、町独自の政策は言明してもらえませんでしたと、こういうふうに書いておられます。

ところがいろいろ調べておりましたら、愛・笑顔、助け合い、地域お助けネットというのがありまして、ネオポリスの方を主体にこういうことをやっておられる団体がある。えっ、これはまさに私が提案をしていたデマンドタクシーやないか。1人100円、ガソリン代だけいただいて、要望があったら、そこへお迎えに上がって、どここの医者まで乗せていってくれと言ったら、片道100円で乗せていってくれる。この素晴らしいことをNPO法人でやっておられる。えっと、こんな施設があったのに、何でこういうことを答弁に入れないのか。知っておった人だけが得をして、100円で送り迎えをしてもらえるのか。みんなもっと平等に行政をやるべきではないかと。

そしてこれを調べたら、1年間に1万5,000円の補助金を社会福祉協議会からもらっている。こういうことでございます。町から直接は出てないけれども、この団体には1万5,000円、わずかでございますが出ておるけれども、これは私、人を調べましたら、大きな企業、定年退職されて何千万円も退職金をいただいた、こういうすばらしい方々ばかりでございます。退職したんですから60歳を超えておられる。あと15年、20年したら、この人たちも、このお助けネットの車を借りなければならない。そんなときに、この人たちがお助けをできるかどうか。そしてすばらしいお助けネットのタクシーを自分の車でやっておられる。100円のガソリン代だけもらって送らせてもらう。これを存続させるために、若い子がこれを引き継げるかどうか。これはまさに町行政がやるべきではないかと私は思うんです。

この人たちが本当に心から敬意を表するわけでございます。ありがたい施設でございますが、これはいつまで続くか。これからずっと安心・安全が続くのか。こういうところにもっと補助金を出して、これを拡充するとか。町長、ご存じだったら、こういうことをやっておる団体があるので、ご利用いただくようにするとか、何か答弁をしてもらえればいいんですけど、これはできません、あれはできませんと、できないことばかり前向きな発言はなかった。今日の冒頭で、ありがたいことに前



向きにご検討いただきたいということを自分の口からおっしゃった。前向きに検討していただきたい、そう思うわけでございます。

私はないものねだりをしているわけではないのです。あるもの探し、こういうことがあるというのだったら、皆さんが困っておられる人に、それをお示ししてご利用いただく。それで手いっぱいになったときに、こういうことは、やっぱり行政がやるべきだと。社会福祉協議会、東員町、いろんなことを書いた車があちこちにとまっている。ああいう車を利用して、この暑い最中、歩いて電車に乗って1区行って、こういうこと。それではお年寄りの安心・安全、東員町に住んでよかったと思えるわけがない。

町長はできないとおっしゃったので、調べたら、三重県熊野市に有償運送、NPO法人で「乗ってこらい」というところが、300円でこういうことをやっておられる。やれないことはないんですよ。本当に困っている人たちに手を差し延べる温かい行政をやっていただきたい。

時間がありませんので、次に移らせていただきますが、その後どうなったかということでございます。

石樽のトンネルが来年春に開通される予定でございます。もう開通間近でございます。当町へのアクセス、それを生かした町活性の事業、対策はどうするんや。トンネルができて福井や北陸の人たちがこっちのほうへ来るかなと思ったら、どうも長島温泉ぐらいは行っても、ここを通っていく人たちは飲み干した缶々、空き袋を東員町にほっていく。ごみ拾いだけ東員町やっとなって、町が潤うことは何も無い。

ところが東員町の人はどうかというのと、あのトンネルをくぐって向こうへ遊びに行く人たちが出て、こっちが出口になる予定をしていたのに、入り口になってしまって、どんどん向こうへ出ていってしまう。

こんなことで事業はいかんの、あのガラスの温室ハウスをもう少しみんなが見に来るような施設にしてほしいということを行いました。担当課長にもいろいろお願いもしました。ところが、あれは農業施設やで、野菜とか果物とか、農業の物しか売れませんか。私は日本木地師学会の会員でございまして、板とか木で器をつくったり、置物をつくったりやっているわけです。そういう人たちが員弁郡に何人かいらっしやいます。そういう方もあそこでちょびっとやらせてくれといっても、それは農作物ではないので売れないと。あの施設は一体農業のものなのかどうか。施設は大体役割を終わっているのではないか。だから建屋として、この間も5日、防災訓練の前に朝市をやってみえたのでのぞかせていただいた。もっともっと充実させないといかん。

東員町の路地栽培だけでは、ああいうことは埋まらない。木地ろくろの人たちも、皆さんあそこで1つの建屋として利用して、皆さんが見に来る、潤う、笑顔のあるまちづくりをつくってほしいと思いますが、町長、いかがでしょうか。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） その後どうなったかのご質問にお答えをいたします。

1点目の石樽トンネル開通に伴う町活性化事業対策につきましては、本年度末を完成目標に現在工事が順調に進められております。

石樽トンネルが開通いたしますと、滋賀県からの利便性が格段によくなることから、多くの方が三重県の北勢地方を訪れることが期待をされております。本町は豊かな自然に恵まれ、貴重な歴史遺産を有しており、活性化を図るためには、中部公園を核としたスポーツ公園、大社祭、コスモス祭といった既存の観光資源の整備充実を図るとともに新たな観光資源の掘り起こしを行うなど、町と観光協会が一体となって進めていく必要があると考えております。また、近隣市町と連携を取り、広域の観光ルートづくりや広域的なPR活動を実施するなど、積極的な施策を推進してまいりたいと考えております。

次に、先ほどご質問ございました空き施設の有効利用について、お答えをさせていただきます。

まず、ガラス温室につきましては、花卉クラブによりまして花卉の栽培のほか、園芸教室と朝市の開催をいただいているところでございます。

なお、ガラス温室の利活用につきましては、ふらわあ～びれっじ運営協議会を中心に検討をいただいております。この度、三重県が実行主体であります「美し国おこし・三重」事業のパートナーグループにも登録をいただいたところでございます。

いずれにいたしましても、空き施設等につきましては、危険な施設は別として、有効な利活用に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） 私、暇があって、あちこち飛び歩いております。先般も四国の高知まで行ってまいりました。なぜ高知まで行ったかということ、高知城の下にひろめ市場というのがあるのです。非常に活気があるというので、どういふふうなやり方をしているかということで見に行きました。

高知には、今言いました明德義塾や吉田塾とか、いろいろありまして、そこにたくさんの方のお友だちがおるものですから、友だちを表敬訪問することも一つの目的でございましたが、このところに行きまして、高知のインターの近くにイオンタウンの素晴らしい大きなショッピングセンターができています。まちの中でケーキ屋をしている者、八百屋をしている者、行政書士をしている者、いろいろありまして、いろんなところへ行ってきまして、異口同音に、もう高知はあかんというのです。なぜあかんといったら、イオンタウンにみんな客を取られたというわけです。そしてよくよく考えてみると、高知から土佐のほう、向こうへは高速道路が無料で走って

いる。イオンも考えておりました、土佐や南のほうからずっと高知まで無料で高速道路を走ってきて、そこで下りて、インター近くのイオンで買い物をして帰る。高知市内まで来ないということで嘆いておりましたが、ひろめ市場だけは観光客も来て、今の龍馬伝、岩崎弥太郎、坂本龍馬、いろんな歴史上のそういうものが東員町と違いますので、そういうことで潤っておりますが、こうしたまちづくりを少しでもやっていきたい。

今、朝市と言われましたが、町長、行かれたことがありますか。どういったものがどうやって売っているか。幾らで売っているか。あれで人が来るか。あそこにもっとプラスアルファをして、みんなが見てみたい、行ってみたい、1プラス1が3になるような建屋としての利用をしてすばらしいものにしていきなと、私はそう思っております。今もう既存既得権のように、わしらはここでやるんやと。ちょっと入れてやってくれといっても、いやそれはといて、役場の返事ではないのです。朝市をやっている連中が既得権を取ったことのように言っておる。朝市をやめてしまえというのではないのです。朝市プラス、もっと空いているところをみんななどで利用して、みんなが来てもらう施設にしたいということを行っているんです。町の力強いご指導をお願いしたいと思います。

水耕棟という一番西側が空いてます。もう本当に使えるかどうか。あの施設の中身はひとつ撤去して、イベントハウスにして、表の木を植えてある草ばかりのところ、あれも全部取ってしまつて駐車場にしてしまう。効率を考えたものにするように。

私以前、教育長にも文化会館の西入り口を、入り口・出口、2本ではなくて、出口のほうは少し歩道を減らしてでも、南へ行くのと北に行くのと2本やってほしいということを行ったことがあるのです。ハハッと笑ってみえたけども、みんな並ぶと講演が終わって出ていくときに、なかなか車が出られない。南側へは行けるのに、何で北へ行こうとする車が行けないので、あそこは両方出られるようにしたほうがいいと。そんな金かからない。私も庭いじりに重機を持っていますので、明日の日からでも、許可をもらったら私がやってしまう。そういうふうに思っております。

何か検討検討で、それが検討違いというものです。早速、いいと思ったことはやっていただく。そんなに金がかかる問題ではない。人があそこを使わせてやるといったら、寄ってきてやってくれるんですよ。そのところを、はき違いをしてもらうと困ると思います。

どうかひとつ、これは早急に手を打って、すばらしいまちづくりにしていただかないと、石樽トンネルの開通は間に合いません。そしてイオンタウンはこの間話しましたけども、オープンするのは再来年ぐらいです。来年オープンできるかどうかわからん。そんな状態で手ぐすねを引いて待っておるのなら、町行政が、ちょっとしたきっかけで、もっと人が集まってくるようなことができる。

私、町長とどこかへ行って一杯飲んだという話がない。今まで四日市や桑名の市会議員や、いろんな役場の職員とは飲んだり食べたりするんですが、そういうことがないので、こういうことをここでしかしゃべれない。そしたら中村充男の一般質問終わったで、ホッとしたということで、ポッと忘れてしまって何も実行に移らない。一杯飲みながらでもいいから、朝まででもいいから、一生懸命それを話をして実のあるものにしていきたい。

町長もお酒が好きとは言いませんが、飲める方ですから、四日市の市長とも桑名の市長ともいろんなことを歓談して、飲んで飲んで、そして町長、わかったということになれば、このような記事で四日市市を提訴する、隣の町と裁判をして何が得になるんですか。たとえ勝ってお金が来ても、弁護士のえさになってしまうだけです。本当の住民のための得なら、佐藤町長、わかったというようなことを、私は水道問題で自分の問題も言いました。自分の問題はちゃんとお金をもらって解決しました。私は長深のほうへも申し出ました。一緒にやりましょうと言ったけど、中上や山田があるので一緒にと言ったのが、結論こういうことです。だから裁判とかこういうような話ではなくて、人と人として酒をくみながらでも、一杯飲んで、よっしゃわかった、3年分払おうやないかというふうなことが向こうから出てくるようなつきあいが必要です。近隣市町としまして、つきあいをして、そして員弁高校に対するお祝いも、そんなところと歩調を合わせて、かたや市で北勢線、これは利用者負担やといって、東員町やいなべ市にようけ金を出せと。東員町も2億円出せというようなことをいって金を出しておって、こんなときには3万円出ただけ。そんな不合理なことがありますか。もう少し人脈を生かした行政をしていただきたい。

そして私、最近、役場の庁舎内をうろちょろしておりますが、いろんな職員と話をさせていただくと、何やいい加減な人が多いなと思っていたのが、なかなかすばらしいアイデアを持って知恵を持っている。この職員力を生かしていない。一杯飲もうやないかと職員を連れていって意見を聞いたことがありますか。僕はびっくりしました。ここ最近、いろんな人と話していて。職員力という力。幹部だけで2~3人でちょろちょろと話しているだけではだめです。いろんな本音の意見を聞いて、職員のすばらしい知識や知恵やアイデアを、もっと腹から聞いて行政に手を打ったら、こんなことをしておることはない。僕はそう思います。ひとつ心してやっていただきたいと思います。

そして3番目の通告にまいります。決算状況に見る所見でございますが、過去数年間、平成18年から調べてまいりました。平成18年は7億5,000万円強、平成19年は4億7,800万円、平成20年度は7億8,500万円ほど黒字だと。今年度も5~6億円黒字だと。単年度で5億円、7億円の黒字を出しておられます。赤字は出てないのでいいのですが、以前に文化協会で、こんな赤字のことをやっていていいのかといったときに、文化はお金で買えない、赤もあれば黒もあっ

て、とんとんでいけばいいほうなんやけども、これは文化事業やからという教育長の答弁もありましたが、町の行政で6億円、7億円の毎年黒字やといばっておっても、もっとやることがあったら、とんとんでいいからやってほしい。お年寄りも困っている。

来年いよいよ選挙でございますので、出るのか出ないか、こんなところで野暮なことは聞きませんが、町長、現職強いですから、どんな人が来ても大丈夫ですよ。というのは、私はこれは裏を言っているのです。現職が強いということは、小学校、中学校に入ったら5万円ずつやるぞとって、ばらまきの行政。そして幼稚園や保育園、もう使えないと。10トンのダンプをぶつけても壊れないようなところを耐震構造がどうのこうのと、できないことを言って新しい学童保育所を3千万円、4千万円かけてつくる。そうしたことができるから現職が強いということを行っているのであって、私は民主党のやり方だと一緒だと。

子ども手当だと金をばらまいて票をくださいと言っているような民主党政権、そして外国人に参政権を与えよと。今度、党首選挙の真っ盛りでございますが、党首の選挙においても、外国人もみんな党首の選挙ができるのです。我々は民主党ではありませんのでできませんが、四日市で外人と会った時に、誰がいいと思うかというようなことを聞いている。おまえが何で投票できるかといったら、2千円か3千円払っていて民主党のサポーターになっていて、誰ということが言えると。外人が日本の総理大臣を決めるような選挙ができる。

そして、こんな不謹慎なことを言って申しわけないけれども、前鳩山総理は韓国の女性と鳩山威一郎さんから出てきた子ども、そして鳩山邦夫さんは、今の石橋安子さんとの子ども、顔を見ればわかります。全然違う。そして韓国の血が入っている。韓国人はあかんと言っているのではないですよ。今戦っている菅さんも小沢さんもお母さんは韓国人で、韓国にお墓もある。みんな日本が乗っ取られてしまう。

こういうような状況のときに、東員町だけは独立して頑張っていくなら、もっともっと真剣な皆さんの職員力を生かした町行政にしてほしいと思います。あとわずかでございますが、町長のこれからの、今まで2年半見させていただいたが、佐藤カラーというのが一体何なのですか、教えてください。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 決算状況を見る所見ということで、答弁をつくっていただいているんですけど、いずれにしても東員町の場合は健全財政、どこから見ていただいても、よそに負けない財源力がございます。だから先ほど、もっとお金を使えと。極端な言い方をされますと、もっとお金を使って、どんどんやれということなんですけど、もし仮に中村さんの論法で言ったら、赤字を出したらえらいことですわ。とたんにクビになります、私。そういう中村さんの考え方。そんなことを

していたら、現在の社会の情勢、政治の情勢、東員町はただちに合併せんならんです。

今、一括交付金という形で言われております。厳しくなるのは間違いございません。楽にはなりません。だから我々は一生懸命企業誘致等もして、財源を確保しなければ、東員町は大変になりますよということで、企業誘致もさせていただいております。今度Y Gテックも増設をしていただきます。イオンも建築に入っております。今が一番大事な時なんです。そんな時にもし仮に赤字を出しておったら、中村さんの論法で言ったら、どんなことを言われるやろうかと、今思っておるんですけど、大変なことを言われるやろうかと。何をしているのやということで。だからやはり私は、今は少々辛抱して、きちっと将来のまちづくりに備える、そんな時だと思っておりますので、どうぞご理解をいただきたく思います。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 中村議員。

5番（中村 充男君） お言葉を返すようですが、私が言っていることは赤字を出せと、夕張化しろということを行っているではありません。6億円、7億円の黒字を出すなら、もう少しかゆいところに手が届く行政ができるんじゃないかと。もし災害があったときにどうするんや。災害の見舞金はちゃんと国から来ます。

そして私は赤字を出せと言っていない。これだけの黒字があって、あと1億円で2億円でも、デマンドタクシーやそういうもので、本当に介護までいかない足のない方々の手足となって、小回りのできるものはできるんじゃないかということも言ってるわけでごさいます。私が言っていることは、みんな赤字につなげてどうなるかということを行っているのではございませんので、ご了承いただきたいと思っております。

これからの東員町を背負って立つような職員が、この中にもたくさんいらっしゃる。話してみるとわかる。町長、もっと個人的にいろいろ腹を割って、職員の方の意見を聞き、生かしていくことが、今はいい。町長、あと4年や5年はこのままでも何もいけるんです。その後、我々の子どもや孫の代に、安心・安全、幸福が繋がっていくかということ、このままではだめだということで、ご協力をいただきたいということを行っているのごさいます。

先般、この8月末から、私、四日市で、事業というほどでもないのですが、商売をしておりますが、職員がやってきた。事業所税をいただきますと。800平米を超える商売をしている人、いろんなところに平米60円の事業所税をいただくというものですから、私は東員町から盗んでいった水、ただで持ってきた水を売って事業所税もあったもんじゃない、何を言っておるのやと。地下のほうは風呂で使っていない。1回も使っていない部屋が多い。2階のほうは、ほとんど倉庫で使っていない。平米はかっていけということでやり合いをしましたけど、四日市はその税収のため

に、事業所税を9月から取り入れて、そうやって納得して出す企業は幾らでもあります。

このままでは赤字になってしまうと。何かまさに赤字を奨励しているようなことを言う、ぼーっと聞いていると思われてしまいますので、私は、赤字はだめですけども、もっと6億円、7億円、黒字やないかと、そんなものはその世界でいばっていることであって、税金を払っている、みんなもっと有効に使えよと、その声聞こえませんか。どうぞひとつ住民の皆さんの忌憚のない意見、職員の本当の意見を聞いて、職員力を生かしていただいた行政を切に期待いたしまして、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。